

令和5年度 全国学力・学習状況調査

調 査 結 果

- | | | |
|---|---------------|-----------|
| 1 | 調査の概要 | 1 ページ |
| 2 | 教科に関する調査結果 | 2 ～ 3 ページ |
| 3 | 質問紙調査に関する調査結果 | 3 ～ 6 ページ |
| 4 | 総括 | 6 ページ |

令和6年2月
羽幌町教育委員会

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- ① 小学校調査 小学校6学年
- ② 中学校調査 中学校3学年

(3) 調査の内容

① 児童生徒に関する調査

- ・ 教科に対する調査
 - ・ 小学校調査（国語・算数）
 - ・ 中学校調査（国語・数学・英語）
- ・ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

② 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

(4) 調査期日

令和5年4月18日（火）

（英語「話すこと」に関する調査は、4月18日（火）～5月26日（金）の文科省指定日に実施）

(5) 調査を実施した学校

羽幌小学校
天売小学校
焼尻小学校
羽幌中学校
天売中学校

2 教科に関する調査結果

(1) 教科に関する小学校調査の結果（国語、算数）

< 国語 >

学習指導要領に示されている

【知識及び技能】

- ① 言葉の特徴や使い方に関する事項
- ② 情報の扱い方に関する事項
- ③ 我が国の言語文化に関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

- ① 話すこと・聞くこと
- ② 書くこと
- ③ 読むこと

に基づいた、選択式・短答式・記述式の3種類とした問題（14問）

■国語全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

【知識及び技能】 全道・全国を下回っている。

【思考力、判断力、表現力等】 全道・全国を下回っている。

※令和4年度調査の国語全体も全道・全国を下回っている。

< 算数 >

学習指導要領に示されている「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」に関わる問題（16問）

■算数全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

「数と計算」 全道・全国を下回っている。

「図形」 全道・全国を下回っている。

「測定」 設問なし。

「変化と関係」 全道・全国を下回っている。

「データの活用」 全道・全国を下回っている。

※令和4年度調査の算数全体も全道・全国を下回っている。

(2) 教科に関する中学校調査の結果（国語、数学、理科）

< 国語 >

学習指導要領に示されている

【知識及び技能】

- ① 言葉の特徴や使い方に関する事項
- ② 情報の扱い方に関する事項
- ③ 我が国の言語文化に関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

①話すこと・聞くこと

②書くこと

④読むこと

に基づいた、選択式・短答式・記述式の３種類とした問題（１５問）

■国語全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

【知識及び技能】全道・全国を下回っている。

【思考力、判断力、表現力等】全道・全国を下回っている。

※令和４年度調査の国語全体は全国を下回っている。

< 数学 >

今後の学習において活用される基礎的・基本的な知識及び技能や、その知識及び技能の活用課程を基準とした「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の問題（１５問）

■数学全体の平均正答率は全国・全道を下回っている。

「数と式」全道・全国を下回っている。

「図形」全道・全国を上回っている。

「関数」全道・全国を下回っている。

「データの活用」全道・全国を下回っている。

※令和４年度調査の数学全体は全道・全国を下回っている。

< 英語 >

学習指導要領に示されている五つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」）別の目標及び内容に基づく問題（２２問）

■英語全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

「聞くこと」全道・全国を下回っている。

「読むこと」全道・全国を下回っている。

「話すこと〔やり取り〕」全道・全国を下回っている。

「話すこと〔発表〕」全道・全国を下回っている。

「書くこと」全道・全国を下回っている。

※平成３１年度調査の英語全体は全道・全国を上回っている。（英語の実施は平成３１年度以来）

３ 質問紙調査の結果

（１）児童・生徒に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項を主に、小学校 63 項目・中学校 72 項目について、児童・生徒に質問紙調査を実施

＜全道・全国と比較した主な傾向：小学校＞

- 朝食を毎日食べている割合は標準的である（前年は低い傾向）。
- 学校に行くのが楽しいと思っている割合は低い傾向にある。
- 学校の授業時間以外の勉強時間は、平日は短いものの、休日 3 時間以上勉強をする児童の割合は標準的であるとともに、勉強まったく勉強をしない割合は低い傾向にある。
- 学校図書館や地域の図書館に行く頻度が高い傾向にある。
- 授業中の PC・タブレット等の ICT 機器の使用頻度は標準的である（前年は低い傾向）。
- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる事が出来た割合は標準的である（前年は低い傾向）。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という質問に対し、ポジティブな回答をした児童ほど、国語・算数の両教科で正答率が高かった。

＜全道・全国と比較した主な傾向：中学校＞

- 朝食を毎日食べている割合が低い傾向にある。
- 土日・平日を問わず、授業時間以外に勉強する時間が少ない傾向にある。
- 学習塾や家庭教師の先生に教わっている割合が低い傾向にある。
- 図書館等を利用する頻度が高い一方で、平日学校の授業時間以外に読書をする時間は短い傾向にある。
- 地域の行事に参加している割合は多い傾向にある。
- 授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用する回数が少ない傾向にある。
- 国語の勉強が好きな割合が高い傾向にある。

（２）学校に関する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査
（授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況）に関する事項を主に、学校に質問紙調査を実施

＜全道・全国と比較した主な傾向：小学校＞

【ICT について】

一人一台端末を活用した家庭学習等の ICT 機器の活用が進んでいない傾向にある。
また、「コンピューターなどの ICT 機器の活用に関して、学内外におけるサポートの状況が受けられていますか。」という問いに対し、そう思うと回答した割合が低い。

【教育課程等の編成及び運用】

「教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している」、「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立している」「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」との回答があり、学習計画をしっかりと策定し、その効果を評価しながら次年度以降の計画に反映する意識が高い。

【教員研修】

「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている」、「個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している」、「校内研修を行う分掌を設け、研修主事が担っている」もしくは「校内研修を行う分掌を設け、研修主任または研究主任が担っている」との回答が見られ、教員研修について主体的に臨む姿勢が醸成されており、研修主事等によるサポート体制も構築されていると考えられる。

【児童のコミュニケーション能力について】

「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」、「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う」と回答した頻度が高い傾向にある。

<全道・全国と比較した主な傾向：中学校>

【ICT】

「ICT を活用した校務の効率化（事務の軽減）」「教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどの ICT 機器の活用」の活用は進んでいるが、「不登校生徒に対する学習活動等の支援に関する ICT 機器の活用」や、「ICT 機器の活用に関する、学校内外におけるサポート」についても十分とは言えない状況にある。

【教育課程等の編成及び運用】

「教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか」、「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立していますか」および、「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」という問いに対し、全校が「よくしている」と回答した。

【地域との連携等】

「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」という問いに対し、全校が「よく行っている」と回答したのに対し、「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか」に対しては「あまり参加していない」か「まったく参加していない」という回答だった。また、「保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか」といった問いに対しては「どちらかといえばそう思わない」か「取組を行わなかった」との回答だった。

4 総括

今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、小学校調査では国語・算数いずれも全道・全国の平均正答率を下回っているが、全国平均正答率との差も令和4年度と比べて広がっている。しかしながら、H31年度以降の推移をみると、全国平均正答率と比較して平行線を描くように推移しており、学習過程をしっかりと策定し、次年度に生かしていく試みを継続していく必要性がある。ICTの活用に課題がみられるため、今後も継続して改善の取組を行う必要がある。

中学校調査では、国語・数学・英語いずれも全道・全国の平均正答率を下回っているものの、数学・英語については前回調査時の平均正答率との差が縮まっている。「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」こと等により一定の効果が出ているものと考えられるが、ICTの利活用やには課題が見られる。

今後は、これらの調査及び分析結果に基づき、これまでの取組に係る成果を踏まえつつ、保護者や地域などの理解や協力を得ながら改善に向け積極的に取り組むなど、児童生徒の生活改善・意識の醸成を図り、総体的に学力向上へ取り組んでいく必要がある。